

科目名 (Eng)	産業経済史(History of Industry and Economics)								
担当教員	川崎 俊郎								
対象学年等	学科・学年		授業期間・区分・単位数・時間数				分野	形態	学修単位科目
	一般科目コミ科	5	前期	必修	1	30	一般	B	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：1).								
	JABEE基準1(1)との対応：(a). (b).								
授業の概要と方針	明治以降の日本について産業・技術・経済の分野から概観する。								
到達目標	①資本主義が日本に与えた影響を理解する ②近代以降の日本における技術受容と技術開発の概要を理解する ③経済統計を図表化して授業の内容を自ら説明できるようにする								
授業計画									
	週	授業項目	理解すべき内容				準備学習		
前期	1	前近代化の日本	近代経済成長、18世紀の日本と欧米				①配布プリントの次回分を読んでおく  ②授業内容のまとめをやっておく		
	2	明治維新と殖産興業	殖産興業政策とその具体例						
	3	産業化の時代 1	日本の産業革命、機械化、工場化						
	4	産業化の時代 2	技術移転、先進国と後進国、開発者利益、後発者の優位性						
	5	資料演習 1	統計の図表化、名目値と実質値						
	6	二重構造	二重構造の特色、重化学工業化						
	7	世界恐慌	金本位制度の崩壊、近隣貧窮化政策						
	8	第二次世界大戦	統制経済、大東亜共栄圏の経済、技術戦としての第二次世界大戦						
	9	戦後復興	戦後改革、GATT - IMF体制と日本						
	10	資料演習 2	統計地図の作成、GISの利用						
	11	高度経済成長 1	高度経済成長の特色、所得倍増計画						
	12	高度経済成長 2	高度経済成長の影響、石油危機とドルショック						
	13	経済統計から見た日本の近代化 1	総合演習						
	14	経済統計から見た日本の近代化 2	総合演習						
	15	近代経済成長後の日本	授業のまとめ						
試験について	前期中間試験は実施しない。前期期末試験は試験期間中に50分で実施する。								
評価方法	定期試験70%、課題およびレポート30%で評価する								
教科書	とくに指定しない								
参考書	「高等学校 日本史B」伊藤純郎ほか、清水書院、および「日本経済史」(全8巻)梅村又次ほか編、岩波書店。								
関連科目	経済学概論、法学概論、技術者倫理								
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に配布するので必ずファイルすること。課題・レポートは期限や様式を守ること。								